

クラブウの技術が支える未来の万博

EXPO 2025 大阪・関西万博



シグネチャーパビリオンのユニフォームに採用

シグネチャーパビリオン

万博会場の中心に位置し、各界で活躍する8人のプロデューサーが主導する「いのちの輝きプロジェクト」の展示パビリオン。



シグネチャーパビリオン
「Better Co-Being」



「NaTech dull」が採用された
シグネチャーパビリオン
「Better Co-Being」の
ユニフォームTシャツ

はじめに

EXPO 2025 大阪・関西万博がついに開催され、大阪の街は活気に満ち溢れています。世界中から訪れる人々が集まり、未来の技術と文化が交差するこのイベントは、大阪の新たな魅力を発信する絶好の機会となっています。

そんな中、シグネチャーパビリオン「Better Co-Being」のユニフォームTシャツに、クラブウの「NaTech（ネイテック）」の糸を使った生地が採用されました。

本記事では、このユニフォームに使用されたクラブウの最新素材とその開発背景についてご紹介します。

クラブウの新素材が

EXPO 2025

大阪・関西万博の

ユニフォームに採用

今回のユニフォームには、クラブウが誇る高機能繊維「NaTech」シリーズのうち、紫外線遮蔽と遮熱性を持つ新開発素材「NaTech dull」（ネイテック・ダル）が使用されています。この素材の特長について、まずはその機能性に焦点を当てて紹介します。

「NaTech dull」

— 新たな開発が生んだ

高機能素材

「NaTech dull」は、クラブウが新たに開発した紫外線遮蔽および遮熱効果を持ち、特に屋外での活動が多いイベントや環境での使用に最適な素材です。これにより、万博の会場で長時間ゲストをアテンドするスタッフが快適に過ごしていくために欠かせない素材となっています。クラブウのNaTechの技術を応用し、新たな素材として開発されました。

共同開発の成果

— ゴールドウインとの連携

この新素材「NaTech dull」は、シグネチャーパビリオンにサプライヤー協賛しているゴールドウインとの共同開発によって誕生しました。

クラブウとゴールドウインは、それぞれの専門分野を生かし、3年以上にわたる開発期間を経て、従来の繊維素材とは一線を画す新しい機能素材の開発を実現しました。このコラボレーションは、両社の技術力が結集した結果であり、今後の素材開発にも大きな影響を与えることが期待できます。

開発担当の視点

— 秋吉さんの情熱



開発担当
TIC
秋吉 大輔さん

「NaTech dull」の開発を担当したテクニカルインベションセンター（以下、TIC）の秋吉さんは、今回の開発にあ

NaTech
特設サイト



り、繊維業界だけでなく、さまざまな業界の素材を研究し、従来の枠にとらわれず、全く異なる視点から素材の開発に取り組みました。

試行錯誤の末、従来なかった機能が確立でき、新たなバリエーションの一つとして画期的な素材「NaTech dull」が誕生します。

秋吉さんの情熱と粘り強い努力、また安城工場とTICのメンバー全員の協力が、「NaTech dull」の誕生を支えました。

**営業担当の視点
ー開発のきっかけと苦労**

「NaTech dull」の開発がスタートした背景には、ゴールドウインの「天然繊維にフォーカスしたい」という意向を前提とし、年々暑くなる日本の夏に対応するため、暑さ対策となる衣料の開発が必要不可欠であるという考えにマッチしていたことがきっかけでした。そこでTICと共に開発を進めることになりました。

ゴールドウインに提案を行ってから、しつかりとしたバック

データを提示できるようになるまで何度も試作を行い、結局1年以上かかってしまいました。先方が飽きずに開発について来てくれるよう話すのは大変でしたが、TICの秋吉さんがゴールドウインとの話に積極的に入ってきてくれたことが功を奏したと話すKMTの井上祥吾さん（当時、繊維素材課）。

開発が終わり、しつかりとしたバックデータが取れた時、ゴールドウインも含めて開発に関わったみんなで安心したことを覚えていと言います。

「アパレルブランドと一緒に苦労して開発に協力してくれたことは、今後の営業活動においても大きな意味を持つ、非常に印象的なプロジェクトであった」と振り返ります。

今後、どんどん暑くなっていくと思われる日本の夏において、衣料という側面から生活の質の改善に貢献できることを願っています。



営業担当
KMT
(クマテックス)
井上 祥吾さん



▲ 1970年大阪万博開催時のドウシン記事

います。と「NaTech dull」の未来について語ってくれました。

**1970年の大阪万博から
つながる伝統**

クラブウは、1970年の大阪万博にもユニフォーム素材を提供しており、今回の万博でもその伝統が息づいています。当時のドウシンにも大阪万博に関する記事が掲載されており、クラブウがどれほど大きな役割を果たしたのかが紹介され、クラブウが万博の舞台を支えてきた軌跡を感じることができました。このように、クラブウは時代

を超えて、素材の提供を通じて、技術力と信頼を築いてきました。過去と未来をつなぐこの歴史的な繋がりは、当社の大きな誇りであると感じました。

おわりに

繊維事業部では、今回の取り組みを今後にも生かし、消費者や社会へ貢献できる素材を提供し続けていきます。

皆さまもぜひ、万博会場へ行かれる際はシグネチャーパビリオンの当社素材使用ユニフォームを探してみてください。

（繊維企画課 萩本 千夏 記）